



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

Global View

2020年2月27日 Newsletter 第65号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部

「仙台白百合学園が取り組む平和国際プロジェクト」

Stephen Hale (英語科)

「War and Peace in the Pacific 75」(略して WAPIP) は5年間のプロジェクトをもとにした学習プログラムである。この国際的な取り組みは、オーストラリア国立マリタイム博物館によるもので、オーストラリア、USA、日本の3つの国の興味・関心のあるすべての高校生のためにある。

この WAPIP の目標は、太平洋での第2次世界大戦に対して異なるそれぞれの国民の見方(考え方)を参加する生徒に調査してもらうことにある。生徒は、戦争体験者、展示物、記録物、博物館での展示品、専門家の意見など、直接大戦に関するものや間接的な資料を調べ、自国の正式版の歴史観(例:教科書などの内容)あらためて問い直す。そして、レポートを編集し、プレゼンテーションを作り、他の国の人々や学校と情報や意見を交換する。



仙台白百合学園はこの WAPIP がスタートした3年前から参加している。研究テーマと取り組み方はその年度ごとに全く違っている。例えば、2017年のテーマ「戦争への記憶や記念」であり、生徒の暮らす場所にとってそれぞれ異なる重要性を調べ、口頭で発表したり記録ビデオをつくったりした。

2018年には「戦時中の国民の体験」がテーマであり、自国での戦争反対運動や戦争がどのように一般庶民の日常生活に影響したかを調べた。研究結果は、オーストラリア国立マリタイム博物館のサイトに添付され、各国での巡回展示がなされた。

昨年のテーマは「秘密とスパイ」であった。本校の7人の参加生徒はブログエントリー、調査書類、マルチメディアプレゼンテーションを作った。特に、彼女たちは重要な調査内容をナレーションし、写真や音楽も結合して5〜8分間のデジタルストーリービデオを作製した。それには、東京ローズ、Ku-Go 殺人光線、風船爆弾、伏龍潜水夫の話題が含まれていた。

このような活動に加えて、参加者は自国のためにユース アンバサダー(日本代表)として一生に一度の機会を得る。この役割は平和、理解、和解を推進することであり、戦争によって失った多くの命を尊ぶことである。この3年間で、仙台白百合学園の生徒は幸運にも英語コミュニケーションやリーダーシップ、アカデミックな学識を得るチャンスを与えられた。その後で、他の国の生徒たちといっしょにわくわくするような9日間の旅行をし、それもすべての支払いは主催者が払うもので、戦争関連の場所や博物館、そして3つの参加国のうち一か国の学校にフォーマルまたは非公式な訪問をしたのである。

